

11
月号

第322号

いっしん

平成23年(2011年)

いかにせば
己が姿の
直くなる
神のところに
そひまつるまで
安武松太郎
御歌

発行：金光教加治木教会 〒899-5213 鹿児島県始良市加治木町朝日町130 発行責任者：矢野文枝 TEL 0995-62-2895
Mアドレス konko.m.kajiki@ksj.biglobe.ne.jp ホームページ http://www.7a.biglobe.ne.jp/~konkokajiki

ご霊地
青少年少女会の
皆さん →
(10/2)



御本部 生神金光大神大祭 参拝

御本部では、この秋四回にわたり生神金光大神大祭が仕えられ、南九州教区は、十月二日(日)に指定されていますので、毎月一日にお仕えさせていただきます。十月一日・二日に一泊二日で参拝させていただきます。

今回は、宮崎団体のバスに同乗させていただきました。鹿児島に最も近い宮崎県えびの市(鹿児島県境の市)で宮崎市方面から来られた団体バスに乗り込ませていただきました。団体貸し切りバスで、安心・安全に参拝ができ、有難いことです。ご霊地青少年少女会の皆さんが、境内正門付近で東北大震災救援の募金活動をしてありました。子どもたちはもちろんのこと、ご指導・企画・準備をされるみなさんの熱意とご苦労が下がります。

御本部 生神金光大神大祭 参拝… P 1
西南ブロック研修会 講話①… P 2～ 6

お知らせ… P7
教会行事… P8

全国信徒会

九月十一日(日)

西南ブロック信心研修会

鹿児島サンロイヤルホテルにて

講演

講師…宇都木あけみ先生

東京都芝教会長

講題…「迷うことなく安心の道を」①

(要旨…講話の一部省略あり)



九州とのご縁

九州とご縁があるのは、今から十五年前に、父(大場正範師)が亡くなりまして、二十年間お手伝いはさせていたでいておりましたが、急に教会長になりました。

急に教会長の御用をするように

なりましたので、私も信者さんも不安が多く、御本部に手伝いの先生をお願いしまして、学院におられました江田泉先生(大分県大鶴教会在籍)に来ていただくことになりました。

信者さんとうまく交流ができなかったので、間に立っているんな御用に、一年間当たって下さいました。

その次が、若松教会(北九州市)の息子さんの吉永亮先生に来ていただきました。この先生も熱い先生でした。

そのようなことで九州の先生方と触れ合う機会や来る多くなりしました。鹿児島は初めて来らせていただきました。

東日本大震災をとおして

今日も募金をしておられますが、東日本大震災では、東京もだいぶん揺れました。交通がストップしまして、夜になると家に帰れない人が溢れ、十時間ほど歩いて帰った人もありました。

ふだんお参りしないような信者

さんもまつ先に来られ、泊まって行かれまして。ほかの教会の信者さんも泊まって行かれた方もありました。また、うちの教会の信者さんがよその教会に泊めてもらった方もありました。そういうかたちで互いに助け合うことができました。

東京の信者さん方が、じっとしておられないということで、三月十九日に数寄屋橋の交差点のところ、四十七人で街頭募金をさせていただきました。

芝教会の方だけではありません。芝教会は毎年、十二月の第一日地曜日に、必ず歳末助け合い募金を三十年ほど続けていますので、許可をいただいで、ホームページなどいろんなかたちで、みなさんに呼びかけてさせていただきます。

するとフォーゲル(金光教の少年少女育成組織)のみなさんや、金光教東京寮(小金井市)の学生さん方はじめ、いろんな方が集まって下さいました。

その東京寮の学生さんの中に斉藤リエさんという、気仙沼教会の信

者さんの娘さんがおられました。

その日の朝、八日目をやっとお母さんと連絡が取れたということがありました。それまでテレビでいろんな状況を観ていても、寮管の辻井先生は声をかけられないほどだったそうです。

しかし、その斉藤リエさんが街頭募金にまっ先に名乗りを上げて下さって、自分だけでなくて気仙沼高校から都会に出てきていた同級生にも声をかけて「私も」「私も」と集まってきた方たちも一緒でした。

最初のうちは遠慮がちだったのですが、後半になると拡声器まで持ち出して、このリエさんが急に元気な声になって「みなさん気仙沼の海は美しいです。でもその美しい海が凶器と化して多くの人の命を奪いました。でも私たちはあの海が大好きです。だからあのきれいな海を取り戻したいと思いますので、みなさんどうぞよろしくお願いします。」と叫び出したのです。

すると、私も辻井先生もまわりにいた大人たちは、みんな号泣という

か熱くなってしまうました。

その後の気づいたことは、あの子達は今回の津波で多くの家や人が流されたけれども、怖い海を恨むのではなくて、頂いてきた海の恵みの方に気持ちを向けている、だからあの海を取り戻したいと言っているのだと思えました。



↑
井上直文先生

石巻教会の井上直文先生は、九州の日田教会のご出身ですが、教会の

先生方やボランティアの方たちにこのように言われたそうです。

「私たち人間の住んでいるところを大地震や大津波が襲ったのではなく、大地震や大津波が起こる地球で私たちは育ってきている、だから大変な被害を受けたけれども恨んではならない」とお話され、ボランティアに行った人たちはその言葉に「感動した」と言って帰ってきました。

教会のお広前は流され、多くの信者さんも被害に遭われた中に、このようない言えるというのは、被害を受けている以上に恵みを受けているという思いがあたりだからです。地球の歴史を一年にたとえると、人間がこの地球に誕生したのは、大晦日十二月三十一日の午後九時二十一分二十一秒ということです。

そう、人間は新参者なのです。そういう新参者である人間が、勝手にいるところに住んで生活をしてきているのに、「何で人間を襲うのか」と言うのは神様に対して大変

申し訳ないことです。

新参者の人間が、中心となって勝手に環境の破壊やいろんなことをするので、地球の存亡に関わってくるのではないかと思えます。

それではいけないと、私たちは大きな問題提起をしていただいていると思うのです。

「神人」って何？

今回の研修会のテーマは「神人」を現し、お道を伝える」ということですが、私自身が御用をさせていただいていたこの十五年間が、「神人」を現す」ということでもあったのではないかと思えますので、そのお話しをさせていただきます。

このテーマを見らせていただきました当初、少し悩んでいましたが、主人に「これだ」と示されたのがこのTシャツの「神人」の文字です。

これは、若松教会で作られたTシ



シャツですが、実はこの字は、私の主人、宇津木員夫（元TBSリポーター・デスク、現金光教輔教）が書いたものです。

どうしてこれを書いたかと言いますと、大鶴教会の江田泉先生に来ていただくときに、最初にお願ひに行ったときに、大鶴

教会の奥で床の間に掛軸が掛かっていました。その字が「神人」でした。

出川先生は私が学院時代にお世話になって非常に魅力的な先生でもありましたが、その字の「神人」の神の字が人の字を突き抜けていて、神と人の関わりを現されているように思いました。

すると、いつの間にか主人が講演やいろんなところで色紙を書く機会に、チャッカリそれをまねて「神人」と書いて渡していたのです。

若松教会でも、この字を書かせていただいたときにTシャツにされたのです。ここに「K・UTSUGI」とありますところに「KAMINTYU」とあります。

沖繩に「海人」(UMINTYU) Tシャツというのがありますが、その会社で作ってあります。

そして、この字を見たときに「これなんだな！」と思ったのです。

立ったままいつも人を生かそうとしている、神という字の右側の下が人の字のいわば心臓のところを突き抜けています。心臓というのは人が生きる大事なポイントです。そこにつながつて私たちが命をいただいで生きている。そして、人間がその神様のお働きを日夜受けている、その神様に人間が心を向けたときにこの「神人」の関係ができてくる。

つまり、ほんとうの神様のお働きがわかってくることであると思えます。

自分にとって不都合なことがある、しかし、その中であつても神様は自分を守って恵んできてあるとい

うことがわかったときに人間は助かるのだと思います。

起きてくることはすべてがおかげになるということが、このテーマの中には意味されていると思いますし、そういうことが解ったときに安心の心になると思っています。

「安心」とは？」

私は、信心させていただくのは安心の境地に近づいていくことだと思います。

そして、いつかは安心の境地になる、神様にすべてをゆだねることができるようになることが救われることで、それを求めて私たちは信心させていただいているのだと思います。「このお道は、ひとことと言うとどんなお道ですか」と聞かれたならば、私は「安心の道」だと言います。

「安心」という言葉を調べてみますと「安心とは、安心立命のことである」と、「安心立命とは、神様にすべてをおまかせし、心を安らかにし物事に動じないこと」とあります。

「安心」という言葉が入っているご理解がいくつかあります。

山本定次郎の伝えに「子供に安心のことを伝えるは、真の信心であるぞ」と。

大喜田喜三郎の伝えに「神が天地の理を説いて、安心の道を授けてやる」とあります。



「安心」への道

それではなぜ「安心」が大事なのかと私なりに考えてみますと。

教祖様の生きられ方でこのお道が生まれ、このお道の誕生に関わってくるのですが、教祖様のご信心によつて、それまで金神と呼ばれて最もたちの悪い皆に逃げ回られていた神様だったわけですが、いつも人間と痛みを共にして下さる人を助ける神様ということがわかったのです。教祖様もまたそれまで、きちんと日柄方角を見て、方角が悪いと遠回りをされ、日柄を見てはだんだんと家を大きくして行かれます。

しかし、年忌年忌に、たとえば前の人々が亡くなった一周忌や三回忌や七回忌などの同じ日に、再び家族が亡くなるとか飼う牛が死ぬということが続きます。

それが「何でなんだろう」と思われ、人がされる「金神よけ」「金神封じ」はされないで「神様」という名がつく限り絶対に人を助けて下さるはずだ」と思われ、自分の家でお金神



様をお祀りして灯明をたててひたすら祈られ、このようなことが起こってくるには私の方に何か誤っていること非があるのではないかと求め続けられるのです。

その結果、四十二才のときに自分自身が「のどけ」という扁桃腺炎に罹られるのです。

そのときに、お祈りをしている義理の弟の次郎さんという方に金神様が乗り移られ、義理のお父様が問答をされ「文治はこれまできちんと日柄方位を見てきており間違いはない」と言われたとき、金神様は「日柄方位を見れば主人は死んでもよいか」と言われたときに、教祖様はハッと感じかれ「人間であるからにはどこにどういいう間違いがあるかわかりません」と思われるのです。

そうして声が出るようになられ、病床からはい出してこられお断りを申し上げられるのです。

すると金神様が、「よくぞわかってくれた」となり、さらに「そういう氏子を探していた」ということを打ち分けられるのです。

日柄方位を見ることは金神様の留守を狙うことであり、お気触りだったわけです。

教祖様はその金神様を必ず人を助けるお働きがあると信じ切り信じ抜いて行かれたので、金神様が本当の思いを打ち分けられ、人が助かる働きが現れてくるようになるのです。「神からも氏子からも、両方からの恩人はこの方金光大神である」仰せられ、教祖様の「信心があつてこのお道が生まれてきたのです。

いつも人間と痛みを共にして下さる神様がおられたということがわかったのです。

教祖様がおられたからこそ「神人」共に助かる「安心」の道が開けてきたのです。

日柄方位を否定するのではなく、

神様にお断り申し、お願いをしてさせていただけば「安心」。天地の大親神様だから大丈夫「安心」という、そういう世界を開かれたのです。

神様から逃げようとしていたのを真つ向から寄り添われて神様のお働きを頂いて「安心」して、乗り越えて行かれ、「神人」の働きを現すようになられたわけです。

このお道は「何も無いのがおかげ」であります。「難があつてもおかげ」です。私のおばあさんが言っていました「起こることみんなヨシやで」と、今その言葉がよく思い出されます。

お道の信心はほんとに素朴な言葉で、どんなことがあつても「安心」という、素晴らしい信心を現された教えだと言えます。

(つづく) まで



【※今回のお話の読み方のポイント】

「生まれる力もない、生きる力もない人間が、親神様から生まれめられ

生かされて生きている、そのおかげ（お恵み・大恩）を知っているのか？そのおかげを知って報いて行くこととするのがほんとうの「心じゃ」という意味のみ教えを安武松太郎先生は矢野くら様にしております。（『私のいたたく安武松太郎師』中にあり）

心の眼が開いて、ほんとうの天地の「ご恩や、道理、親神様のお働き、親神様の御立場がわかってくると、（心の眼に映ってくると）、人間がどのような存在であるかがわかり、これからどのような生き方をして行けばよいのかの見とおしがり立ち、「大安心」の世界が広がって行く、というようなものではないでしょうか。

(A)



ご霊神様のおまじ

十一月

- 中村光志之霊神 (12日) 平成19年
- 大重為昭之霊神 (13日) 平成12年
- 吉屋アイ之霊神 (14日) 昭和56年
- 瀬尾清博之霊神 (17日) 昭和49年
- 大重愛子之霊神 (20日) 平成2年
- 桐野八ル之霊神 (21日) 昭和63年
- 金竹ナミ之霊神 (24日) 平成19年



「先祖の「霊神様の、現世・幽冥(かくりよ)でのお働きあつての今日の私たちであります。立日の月には、故人を偲び、玉串を奉てんしてお礼を申し上げます。」

教会では、十日の月例祭で、霊前での玉串の奉てんを準備しています。

あしあと

加治木教会行事記録

10月

- 1(土) 御本部御大祭出発
- 2(日) 御本部御大祭 参拝 帰着
- 4(火) 報徳 月例祭 10時半
- 8(土) 連合会「西ノ研修会」反省会
- 9(日) 中村正行氏 告別式(金光教式)
- 10(祝) 祝 月例祭 10時半
- 12(水) 瀬戸淳一氏 告別式
- 21(金) 斎掃御用 10時
- 22(土) 月例祭 兵助会 13時半
- 30(日) 人吉教会100年記念大祭 11時
- 31(月) 斎掃御用 10時

訃報

十月六日、元信徒総代 中村正行さん(九十六才)がお国替えされました。ご葬儀は金光教式で仕えられました。

十月十日、信徒総代 瀬戸淳一さん(八十七才)がお国替えされました。

両氏は長年にわたり、信徒会・信徒総代の御用をおかけ頂かれました。霊のご安心と道立てを祈り申し上げます。

十一月六日(日) 十一時
加治木教会 前日御用奉仕

生神金光大神御大祭奉仕

※ご祭典後、講師の先生によりご教話。

十二月四日(日)

出発午前七時 帰着午後六時頃の予定

甘木親教会

生神金光大神御大祭参拝

御大祭・記念祭

11月

6(日) 加治木教会御大祭 11時

12(土) 大口教会御大祭 12時

13(日) 多良木教会75年記念大祭 11時

〃 西鹿兒島教会御大祭 12時

20(日) 鹿兒島教会115年記念大祭 11時

23(祝) 宮之城教会50年記念大祭 11時

十月二十四日〜十一月五日 御大祭前行期間

ご祈念・研修 午前五時三十分・午前十時
ご祈念のみ 午後四時・午後九時

教会行事

11月

1(火) 報徳月例祭 10時半

5(土) 加治木教会御大祭前御用奉仕

6(日) 加治木教会御大祭 11時

9(水) 斎掃御用 10時

10(木) 生神金光 大神様 月例祭 10時半

12(土) 大口教会御大祭 12時

13(日) 多良木教会75年記念大祭 11時

〃 西鹿兒島教会御大祭 12時

17(木) 連合会執行部会加治木 教会 10時半

19(土) 斎掃御用 10時

20(日) 鹿兒島教会115年記念大祭 11時

併せて 行徳照真大人五年祭

21(月) 月例祭・共励会 13時半

〃 青年会 20時

23(祝) 宮之城教会50年記念大祭 11時

30(水) 斎掃御用 10時

少年少女会 青年会 若婦人会は、都合により
日程を変更することがあります。随時連絡します
のでお気をください。

12月

1(木) 報徳月例祭 10時半

3(土) 甘木親教会御大祭 第一日

4(日) 甘木親教会御大祭 第二日

9(金) 斎掃御用 10時

10(土) 生神金光 大神様 月例祭 10時半

12(日) 御本部布教功労者報徳祭

15(木) (連)布教協議会上荒田 教会 10時半

21(水) 斎掃御用 10時

22(木) 月例祭・共励会 13時半

〃 感謝パーティー 17時より

29(木) 斎掃御用 10時

30(金) 越年祭 13時半

十二月二十二日(木) 十七時より 少年少女会・信徒会 歳末感謝パーティー

会費 大人一〇〇〇円・中高生七〇〇円・小人四〇〇円

…の予定です。(今のところ)